

令和3年度 事業計画

岡山理科大学附属中学校

優れた教育内容を提供し、学んでいる子ども達の学力をさらに伸ばし、難関大学・難関高等学校入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



社会のグローバル化や産業構造の転換等により、個人に求められる能力は変化しつづけます。社会の持続的な発展を支えながらも自らの人生を切り開く力が必要です。そのために、次の項目に重点を置いた教育を展開していきます。

○人材形成と学力育成

大きな変化が見込まれる将来に向かって、自己の夢を実現し、目標を達成させるためには、まず、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する姿勢が欠かせません。このため、これまでの知識・技能の教育に加えて、思考力や判断力さらには表現力、そして主体性・論理性という「真の学力の伸長」に取り組んでいきます。また、日々の学校

生活を通して、基本的学習生活習慣を身につけさせます。

○国際理解と国際力向上

異文化を理解し、グローバル化が一層進む社会の中でも逞しく生き抜ける人間力を育むために、高い英語力を身につける教育に取り組みます。

○家庭との信頼関係

家庭と学校を繋ぐ生活記録ノートの活用により生徒個々の家庭と密接に連携し、本校の教育活動について、生徒の家庭からのさらなる信頼が得られるように努めます。

○組織力の向上

安定した学年運営を行うために、運営会議などによる情報交換や教職員の意識改革を進めることによって、組織力の強化に努めます。

○経営基盤の安定

生徒確保に向けて学校組織全体で広報活動を強化しながら教育改革を進めます。生徒及び保護者が満足できる学校とするために、安定した経営基盤の構築に教職員が一丸となって努めます。

私たち教職員一同は、加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、「生活三則」の指導に一丸となって取り組んでいきます。

立志三風

- 一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風と尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風と養う（友愛）

生活三則

- 一、場と清めましょう
- 一、時を守りましょう
- 一、礼と正しましょう

岡山理科大学附属中学校 校長 田原 誠

I. 教育について

1. 人格形成と学力育成に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
生徒に対して、立志三風と生活三則を継続的に推進します。 【1-1】	■服装指導の実施 モットーは「凜とした爽やかさ」です。規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしを指導します。 ■挨拶の励行 朝のあいさつ運動や職場体験などを通し、気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導します。この指導が面接での自己表現力に繋がるように努力します。
生徒一人ひとりを尊重し、お互い協力できる生徒作りを推進します。 【1-2】	■共通の教育目標 基本的な生活習慣を確立して、集団の中で協力しながら生徒が主体的に活動できる力を身につけるよう指導します。 ■将来につながるリーダーの育成 体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事は実行委員の生徒が主体的に運営します。生徒はこのような自主活動の中で企画力、実践力、思考力などを学び、それぞれの人間形成力を育みます。
学力を定着・向上させるための、学びの習慣化を推進します。 【1-3】	■クラス編成と教育目標 令和元年度入学生からは、SRクラスとして多様な進路志望に対応できるようにし、深い学びを通してしっかりとした学力をつけ、自分の進路をしっかりと考えて選択できる力の養成に努めています。 中学3年生の段階で難関公立高校や難関私立高校への進学を目指す生徒には、進学に必要な学力の養成に努めます。また、高校で求められる、自分の考えをわかりやすく説明できる力の養成に努めます。 中学と高校を一貫して学ぶ生徒には、基礎学力を充実させることから始め、それをふまえて国公立大学や難関私立大学への進学に必要な学力の養成に努めます。また、科学的・論理的な思考能力を高め、探求活動を推進させます。 ■共通の教育目標 少人数教育を生かして、生徒の学力の向上を進めます。さらに、国際的な視野を持ちながら、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる力を身につけるよう指導します。 ■カリキュラム・シラバス関係 SRクラスでは、中学3年の前期までに原則中学校の学習内容を終えます。3年生後期からは、難関高校の受験を目指す生徒の授業では高校入試対策を実施し、中高を一貫して学ぶことを希望する生徒の授業では、岡山理科大学附属高等学校のグローバルサイエンスコースで学習していく上で必要な学力の定着を進めます。

	<p>■授業・学習関係</p> <p>(1) 1単位あたり年間 35 時間の授業時間を確保します。また、行事などで授業時間が確保できない場合があるため、夏期補習期間などを利用して、補充授業を設けます。</p> <p>(2) 夏期・冬期・春期休業期間中に受験対策として補習を実施します。</p> <p>■考査関係</p> <p>成績不振の判定基準点を設け、基準点に達していない生徒への指導を行います。</p> <p>■校外模試</p> <p>(1) 学習の定着度を測り、全国との学力比較や各生徒の弱点の把握などのために、校外模試を受験します。</p> <p>(2) 県内の高校入試に対応できる学力を養います。</p> <p>■自習教室の開設</p> <p>全学年の生徒を対象とし、自学自習の習慣を身につけることを目的に、岡山理科大学と連携し、教員志望の大学生を講師とする自習教室を、年間を通して、週3日、放課後に開講します。</p> <p>■学習計画の指導</p> <p>学習計画を立てて、できたことをチェックする習慣が身につくよう、指導します。また、さまざまな活動についての振り返りをまとめ、ポートフォリオが作成できるよう指導します。</p> <p>■GIGA スクール構想への対応（新規事業）</p> <p>令和3年度から生徒一人一台の端末を導入し、国が進める「GIGA スクール構想」に基づく ICT 教育の実践に取り組みます。</p>
<p>学力を向上させるための、教授法研究を推進します。【1-4】</p>	<p>■授業改善</p> <p>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業や、GIGA スクール構想などに基づく ICT を利用した授業方法、評価方法などの向上を図ります。</p> <p>また、他者を尊重しながら自分の考えを表し深める力や論理的に考えることが出来る力の養成に努めます。このために、附属高等学校で導入している国際バカロレアの教育手法を取り入れます。</p> <p>さらに、教員の授業力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176 と連携を継続します。</p> <p>■教科会議・学年団会議の強化・連携</p> <p>各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進し、情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図ります。</p> <p>また、学年団会議ならびに中学校担任会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行います。</p>

II. 生徒支援について

1. 生徒支援体制の強化に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
入学から卒業までの支援体制の強化を構築します。【2-1】	<p>■家庭、地域社会との協力・連携強化 生徒の日ごとの家庭生活を確認できるような方法を取りながら、家庭との連絡を密にしていきます。また、地域社会の中で生活していることを意識できるように地域との連携を図ります。</p> <p>■教育相談室・保健室との連携 思春期である中学生期を心身とも健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化します。</p>
社会との協働で、生徒の視野が広くなり常識的な習慣を身につけられるように、社会との繋がりを強化します。【2-1】	<p>■社会性規範育成への取組 社会の一員として生活する上での規範意識の啓蒙に努めます。学校独自としての規則だけではなく、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導や話し合いを行います。</p> <p>■情報教育 生徒のインターネットリテラシーの現状を踏まえ、情報モラルの向上に努めます。また、SNS等個人情報の適切な扱いを指導します。</p>

III. 国際化について

1. 国際理解と国際力向上に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
国際化を日常的なものにとらえ、多様な教材等を使用し語学の伸長に対応できる工夫をします。【3-1】	<p>■論理力向上のための取り組み 論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養います。また、論理的思考力・表現力の定着度を測ります。</p> <p>■英会話 自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養います。また、1年生から大学入学共通テストを見越し、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応した教育活動を行います。</p> <p>■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施 (1) 1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目標とします。 (2) 2年在籍生徒の8割以上が4級以上の取得を目標とします。 (3) 3年在籍生徒の6割以上が3級以上の取得を目標とします。 (4) 教員が生徒に対し、積極的に受験指導を行います。</p> <p>■TOEFL Primary Testを1・2年生に実施・希望者にケンブリッジ Key Test 実施 (1) 1年修了時にはCEFRのA2レベルをクリアすることを目標にします。 (2) 2年修了時にはCEFRのB1レベルをクリアすることを目標にします。 (3) CEFRのB1レベルをクリアした生徒にはTOEFL Junior Standardの受験を勧めます。</p> <p>■授業・学習関係 課題に対して論理的・批判的に考えて研究する取り組みを設け、グローバル社会に適應できる人材の養成に努め、語学力の向上を図ります。</p>

IV. 組織・運営について

1. 組織力の向上に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織作りを目指します。 【4-1】	■学校運営会議の強化 校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、学校全体の運営方針に基づき、学校運営が円滑にかつ革新的に進むよう、学校業務の企画立案および連絡調整を強化します。

V. 内部質保証について

1. 内部質保証システム体制の確立に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
内部質保証システム体制の確立と第三者評価を導入します。 【5-1】	■生徒による授業評価・教員自身による授業評価 確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に活かします。 ■生徒・保護者・第三者による学校評価 学校教育活動が教育目標の実現のために適切に行われているかどうかについて、生徒・保護者ならびに第三者による外部評価を頂き、それをもとに学校教育活動のさらなる改善を図ります。 ■授業計画書の作成 全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解できるようにし、円滑な学習活動を助けます。 ■考査関係 定期考査の成績処理終了後、各教科各学年の学習定着状況を把握し、授業計画書を見直します。 ■成績評価基準の見直し 観点別評価のルーブリックを各教科で整備して、「知識・理解」に偏った評価にならないよう、授業中の活動や課題提出なども正當に評価し、生徒が主体的に学ぶことができるような教育改革を進めます。

VI. 運営・財政基盤について

1. 志願者増加への方策に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
<p>情報提供を一層強化します。【6-1】</p>	<p>■情報提供</p> <p>(1) オープンスクールや理科実験教室（小学生参加体験型授業）を計画し、印刷物やWeb等により案内を行います。</p> <p>(2) オープンスクールや入試だけでなく、学校の情報をホームページ、Facebook やInstagramでも、迅速に幅広く提供します。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症に対応する広報企画を実施します。入試対策講座や入試面接対策講座を含めて、申込者数の確保に努めます。</p>
<p>塾との信頼関係をより一層強化します。【6-2】</p>	<p>■塾との関係の強化</p> <p>中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をします。</p> <p>従来の塾訪問に加えて「通勤経路型塾訪問」を実施し、それぞれの塾に本校教職員の担当固定化を行い、相当数の塾訪問を計画し、円滑に実施します。</p>
<p>イベントの内容を充実します。【6-3】</p>	<p>■広報企画</p> <p>「県立中学校適性検査型対策講座」等には多くの児童保護者の参加があります。今年度も継続実施し、引き続き本校教員の各入学試験分析力と入学試験作題力の向上を目指します。この企画では、昨年度行ったYouTube方式の実施と入試WEB出願システムへの参加申込みを行います。昨年度の各種広報行事の参加者数3000人を今年度も目指します。</p> <p>また、学校見学（個別オープンスクール）にて、児童保護者に対し平素の学校を見学する機会を設け、3年生で開講している学校設定科目「理科実験」の見学を積極的に呼びかけます。</p>
<p>入試制度を検証します。【6-4】</p>	<p>■入試制度の検証</p> <p>多様な力を秘めている児童ひとりひとりの力が測れるように、入試制度を検証し、さらなる受験生増につながる入試制度の策定に取り組みます。また、オープンスクール参加から入試出願まで受験者の便宜を図るため、昨年度導入した「WEB出願」のシステムを継続して利用します。</p> <p>これらの活動を通じて、昨年度の入学志願者数400人を今年度も目指し、来年度入学者数70名を目指します。</p>

主な行事予定

4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月17日・5月8日	授業参観【学年別に分散開催】
4月28日	健康診断
5月29日	PTA 総会【書面審議】
9月5日～7日	修学旅行
9月11日	体育祭（岡山ドーム）
10月30日	爽凜祭（学習発表会）
12月16日	百人一首大会
2月3日、4日	校外活動
3月12日	卒業式
3月18日	終業式

生徒・教員数

■在籍生徒数

（令和3年5月1日現在）

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	62	240	171

（単位：人）

■教職員数

（令和3年5月1日現在）

校長	教頭	教諭	教員計
1※	1	11	12

※校長は附属高等学校と兼任

事務職員
1

（単位：人）

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

年度		令和3年度 予算額	令和2年度 決算額	
科目				
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	93,691	80,149
		経常費等補助金	57,608	54,043
		その他収入	4,707	4,398
		計	156,006	138,590
	支出	人件費	123,971	117,560
		教育研究経費	28,005	22,851
		管理経費	11,195	11,429
		その他支出	0	23
	計	163,171	151,863	
	教育活動収支差額		△ 7,165	△ 13,273
教育活動外	収入	0	1	
	支出	0	0	
	教育活動外収支差額	0	1	
経常収支差額		△ 7,165	△ 13,272	
特別	収入	0	126	
	支出	0	0	
	特別収支差額	0	126	
基本金組入前収支差額		△ 7,165	△ 13,146	
基本金組入額合計		0	△ 828	
当年度収支差額		△ 7,165	△ 13,974	